

漁況海況予報事業浅海定線調査

— 陸 奥 湾 —

(要 約)

尾坂 康・仲村 俊毅・植木 龍夫・早川 豊
浜田 勝雄・鈴木 勝男

この調査は、陸奥湾内の海況の特徴や変化を把握し、湾内漁業および増養殖業のための予報や健全な発展に資することを目的として実施したものである。詳細については、脚註の資料に報告済みであるのでこれを参照されたい。

調 査 方 法

調査地点・・・・・・6 定点、毎月 1 回 年12回観測

調査水深・・・・・・0, 5, 10, 20, 30, 40, 50 mおよび底層

調査項目・・・・・・水温、塩分、COD、クロロフィル a 量、水色、透明度、PH、卵稚魚、プランクトン、気象、海底土の強熱減量、含泥量、全硫化物量

調 査 結 果

- (1) 水温は、8月の中旬に西湾で23.7～24.3℃、東湾で25.0～25.4℃の最高水温が観測され、最低水温は3月の中旬に西湾で5.0～6.1℃、東湾で2.8～5.3℃が観測された。
- (2) 塩分は、9月に西湾st.2の底層で34.3%が観測され、最低塩分は、同じ9月の東湾 st.4の表層で32.4%が観測された。これは、8～10月に底層を通じて強勢な津軽暖流水が湾内に流入したことと8月上、中旬に降った記録的な大雨の影響が9月まで持続したためと思われる。
- (3) CODは、0.02～0.64 ppmの範囲にあり、4, 5, 8, 11, 2, 3月に高い傾向を示した。
- (4) クロロフィル a 量は0.08～0.91 mg/m³の範囲にあった。
- (5) 透明度は、10.0～31.0 mの範囲にあり、夏季に高く冬季に低い値であった。
- (6) PHは、8.2～8.4の範囲にあった。水色は、3～5の範囲内にあった。
- (7) 卵・稚魚は、8月を中心に6～10月にかけて種組成・個体数とも多く、カタクチイワシ、ハゼ科、イシダイ、イカナゴが多く出現し、12～3月までは、アイナメが出現した。
動物プラクトンは、CopepodaやCladoceraはほぼ周年優占群として出現し、Noctilucaは8月に極めて多く、Themisto japonica は4月、Sagitta Crassa は5月に優占種として出現した。
- (8) 植物プランクトンは、春から秋頃にChaeteros socialis, Ch. didymus, Nitzschia seriata, Ch. affinis, Ch. decipiens, Bacteriastrum varians がみられ、冬期には、Ch. debilis, Ch. socialis, Thalassiosira mala が多くみられた。
- (9) 海底土の強熱減量は、3.2～23.6%の範囲にあった。含泥量は、st.2, 3, 4で80%以上と高くst.1, 5, 6では、5～85%の範囲であった。全硫化物量は、0.09～0.60 mg/gの範囲であった。

詳細については、「昭和52年度漁況海況予報事業浅海定線調査、青森県水産増殖センター、昭和53年3月」に報告済み。